

【鉄道唱歌】（明治 33 年 5 月）地理教育鉄道唱歌 東海道編（一番のみ）

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として ♪

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇

歌詞推敲協力 身延線鉄道唱歌の会 （作曲 多 梅稚）

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | きてきいっせい ふじえき わ の れっしや はな
汽笛一声 富士駅を 我が乗る列車 離れたり | さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしや たび
三十九駅 九十料 普通列車の旅とせん |
| 2 | ゆのき たてぼり いりやま せ きんだいせいし
柚木 堅堀 入山瀬 近代製紙のおきたとこ | さんだいいだう ひと そ が きょうだい じしや
三大仇討ち一つなる曾我兄弟の 寺社もあり |
| 3 | みぎ れいほうあお ふじね くも おび
右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 | ふじのみや と ざんぐち せんげんたいしや わ みず
富士宮は 登山口 浅間大社に湧き水に |
| 4 | にしふじす さ み あごやま うみ すな
西富士過ぎれば左に見える 安居山あたりの海の砂 | かわ ぬまく ぼ ふじさん
川もないのに沼久保で しばらく富士山さようなら |
| 5 | さんだいきゅうりゅうふじがわ そ ゆ しぼかわ
三大急流 富士川に 沿って行きます芝川 | たけのこうめ さんち みず と まち
筍 梅の産地なり 水やみどりに富める町 |
| 6 | せんごくぶしょう のぶながこう くびづか にしやまほんもんじ
戦国武将 信長公 首塚 西山本門寺 | へいけ わかむしやこれもり はか いなこ おく
平家の若武者維盛の お墓が稲子の奥にあり |
| 7 | いなこ するが あと こうしゅうとおしまよ
稲子で駿河を後にして 甲州十島良いところ | むかし みのぶみちごぼんしよ いま てれしき しどうしや
昔は身延路御番所で 今は電車で自動車で |
| 8 | いで よりはたうつぶな なんぶ ひまつ そらこ
井出では寄畑内船へ 南部の火祭り空焦がす | おうしゅうなんぶ そ ち いふう いま つた
奥州南部の祖の地なり 威風は今に伝えらる |
| 9 | みのぶ ぬき お たち にちれんしゅう そうほんざん
身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の総本山 | ごじゅうのとう さいげん しだ さくらぎはなを
五重塔の再建に 枝垂れ桜木花添える |
| 10 | しんげんこう かく しもへ つか いや
信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん | ゆ おくこうしゅうきんざん たけだし さき ぐんしさん
湯の奥 甲州 金山は 武田氏支えた軍資金 |
| 11 | ぜんこくかくち もくぞう のこ もくじきしょうにん
全国各地に木像を 遺せし 木喰上人の | う いちのせ びしょうかん やま うえ ひと
生まれは一ノ瀬 微笑館 山の上でも人絶えず |
| 12 | く など か いいわま いんしゅう なだか さと
つづけて久那土甲斐岩間 印章で名高き里にして | むか にしじまわ し しよか のぞ かな まち
向いの西島和紙づくり 書家の望み 叶う町 |
| 13 | しかい ひら かじかざわ しゅううん な ぎ
視界が開けて 鰍沢 舟運の名残り今は無く | し てつろ こうすんこうりゅう よ あ
敷かれし鉄路に拠るところ甲駿交流夜明けなり |
| 14 | いちかわだいもん はなび ち え もんじゅ か いうえの
市川大門は花火まち 知恵の文殊は甲斐上野 | だんじゅうろう で ともどもわす
團十郎の出たところ ゆめゆめ共々忘れなん |
| 15 | ふえふきがわ う わた み かじゅ やさい
笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら | かじゅおうこく こうふぼんち はなわ
果樹王国と謳われる 甲府盆地の花輪なる |
| 16 | しほう やま め くもつ やまなみ たか
四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く | ろうじゅ ふか ぜんこうじ いさわ ゆ し こ かん
老樹の深き善光寺 石和の湯けむり指呼の間 |
| 17 | しゅうてんこうふ ちゅうおうせん の つ ひと かずおお
終点 甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く | つつじ さき ゆめ たけだ いせきまも
躑躅ヶ崎の夢のあと 武田の遺跡守れかし |
| 18 | とき ひと か やまなししづおかりょうけん
時は人を替えれども 山梨静岡 両県の | あか へいわ さと み のぶせん とも さか
明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ |

身延線と共に栄えあれ



（歌が聴けます）

「身延線鉄道唱歌」に歌われている風景等の写真募集

身延線鉄道唱歌（以下、唱歌）を作成・普及し、沿線の地域振興に資する目的で「身延線鉄道唱歌の会」が誕生しました。会では、唱歌に登場する風景等の写真・動画を募集します。

皆さんに撮っていただいた写真・動画をつなげたものを背景に、唱歌（約6分）及びその歌詞の字幕を流す一本の動画を作成し、情報発信します。

動画を作成するための写真の募集は下記の要領で行います。

記

- 1 募集内容 身延線鉄道唱歌に歌われている風景等の写真・動画（動画は最大8秒）
- 2 募集期限 平成28年9月末日
- 3 写真形式 動画作成上、画像ファイルのメール送信を歓迎。携帯・スマホ写真でもOK。写真プリント送付の方には、会でスキャン後、写真を返送する。
- 4 送付先 メールアドレス：ooiwa39@gmail.com
郵送：〒418-0013 富士宮市大岩 583-5 身延線鉄道唱歌事務局宛
- 5 留意事項 1) 歌詞のどの部分の写真かを明記する。
2) 動画に採用された場合は、謝礼を送るので、送付者の住所氏名を明記する。
- 6 写真紹介 送られた写真は、歌詞に即して整理し、撮影者の了解を得て「身延線鉄道唱歌の会」ホームページで紹介する。著作権は撮影者本人。動画に採用の場合は、動画のクレジット部分に撮影者氏名を入れる。
- 7 参 考 1) 作詞者の小澤肇氏は、南部町出身、富士市在住の91歳。山梨県自分史大賞を受賞したり、長年の防衛業務推進の功績により藍綬褒章を受章したりしている。
2) 本事業は、平成28年度富士宮市NPO等市民活動等促進事業に採択されている。
3) ホームページには、会の組織、歌詞推敲経緯、ボーカロイド（人声音声）による歌唱と、ダミー写真による動画等も掲載されている。
4) 平成29年1月29日（日）午前10時より富士宮駅前交流センター（きらら）で、富士宮女声合唱団による唱歌の合唱と完成した動画のお披露目を行う。詳細は、会のホームページに→

■問い合わせ 送付先に同じ。電話番号 080-7012-6024

